

芸術学部

- パフォーミング・アーツ学科
- メディア・アーツ学科
- ビジュアル・アーツ学科

人材養成等教育研究に係る目的

芸術学部は、本学創立の理念である全人教育のもと、全人的な陶冶を基本理念として、総合大学における芸術学部の特徴を堅持した芸術教育を目指している。芸術の創造、応用、企画・経営、研究の各学習領域を学びの指針として、幅広い教養を基盤に、高度な専門的知識と実技（技術）の習得を図る。また理論と実践、両側面の統合的学習を通して、芸術の持つ多様多彩な表現の可能性と芸術活動の支援的側面を探求し、学部の掲げるミッション「芸術による社会貢献を推進・実践し得る」人材の育成、ならびに、豊かな創造性と実践的指導力を備えた、中・高教員（音楽・美術・工芸）の養成を目的とする。

パフォーミング・アーツ学科は、音楽・演劇・舞踊の基礎から上級にいたる実技教育システムを構築している。特に学科の中心科目「パフォーマンス」は、劇場等との提携公演を主体に学内外で芸術の創造と表現活動を行い、企画構想から演奏会・舞台公演にいたる学習過程の中で、自己と表現、他者との協調性を学び、コミュニケーション能力と総合的な実践能力の養成を目的としている。

メディア・アーツ学科は、先端のデジタル技術によるコンピュータ音楽系とメディア造形系の2領域を中心に、デジタルとアナログの一体化した学習システムを構築している。また学科の中心科目「メディア・プロジェクト」では、テレビ局と教育連携し、コンテンツ制作・企画・運営を実践的に教育し、現代のメディア社会の中で幅広く活躍し得る人材育成を目指している。

ビジュアル・アーツ学科は、絵画・彫刻・デザイン・工芸分野の基礎から上級にいたる実技教育システムを構築している。学科の中心科目「エキジビション」や公共美術館・博物館との教育連携企画においては、構想から制作・発表に至る過程を学び、伝統と革新、制作と運営、理論と実践などを融合させる芸術の応用能力を備えた人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

- (1) 芸術に関する幅広い基礎的な知識を修得するとともに、得意とする芸術分野の専門的な知識を体系的に理解し、体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然および産業と関連付けて理解することができる。
- (2) 現代の諸問題について、芸術の力を活かした問題解決の方法を考えて、問題の解決に主体的に取り組むことができる。
- (3) 人間、自然、文化および産業に関心を持ち、異なった価値観をもつ人々と協働する際に必要な知識と技能、及び豊かな表現力を身につけている。また、卒業後も自律・自立して学習を継続することができる。
- (4) 知識、技能、態度などを総合的に活用し、自ら発見した新たな課題や社会的な課題にそれらを適用し、その課題の解決に主体的に取り組み、社会の改善に貢献する心意気を持っている。
- (5) 職業人としての使命感や責任感を身につけて、自ら積極的に行動できるとともに、多文化・異文化の存在を認めつつ、社会の規範やルールに従って適切な行動ができる。